



よろい

甲を着た古墳人だより



公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

金井東裏遺跡に埋もれていた人たちの特徴は？

火砕流の中で発見された古墳人骨について、九州大学アジア埋蔵文化財センターの研究グループによって形質的な調査が進められてきました。その結果、全身の骨格がほぼ残っていた甲を着た古墳人と首飾りの古墳人の顔や体の特徴がわかりました。また、筋肉の付着する部分の骨の発達の状態から体の動きを復元する筋骨格ストレスマーカーきんこっかくという分析方法で、古墳人二人の行動の一部が明らかになってきました。

古墳人骨については、ほかにも食性分析しょくせいぶんせきなどさまざまな分析を進めましたが、特に歯根のストロンチウム同位体比分析から、甲を着た古墳人と首飾りの古墳人は、ともに群馬県よりも西の地域で幼少期を過ごし、その後に金井東裏遺跡に来たのに対して、幼児は金井東裏遺跡の地域で生育した可能性があるという興味深いことがわかりました。

そして、DNA分析の結果、甲を着た古墳人と首飾りの古墳人との間に血縁関係がないこともわかりました。

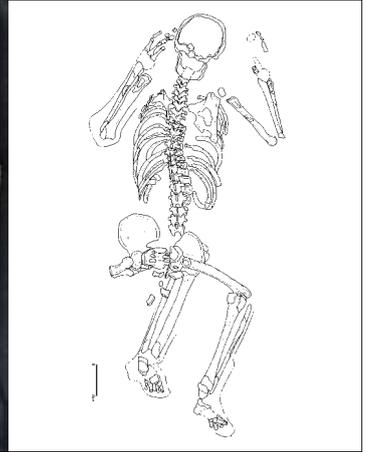


室内の詳細調査が進む「甲を着た古墳人」

■ 甲を着た古墳人

顔が高くて細く、眼窩は高く鼻が細い渡来系の形質的特徴をもつ顔立ちをした40歳代の男性。左大腿骨の長さから推定される身長は164 cmです。この身長は古墳時代の男性の平均身長を上回っています。

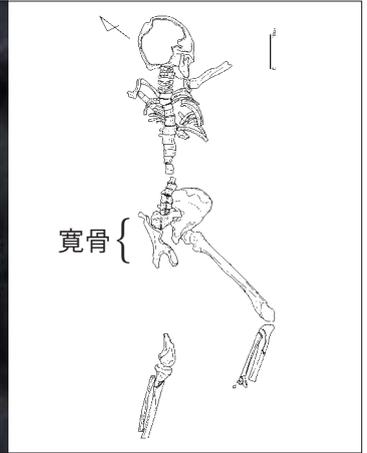
「甲を着た古墳人」の頭蓋骨と全身骨格▶



■ 首飾りの古墳人

顎が張り、鼻の幅が広い関東から東北地方の古墳人の形質的特徴をもつ顔立ちをした30歳代の女性。推定される身長は143.8 cmで、古墳時代の女性としては小柄だったようです。また、この女性は寛骨かんこつの特徴から出産経験があったようです。

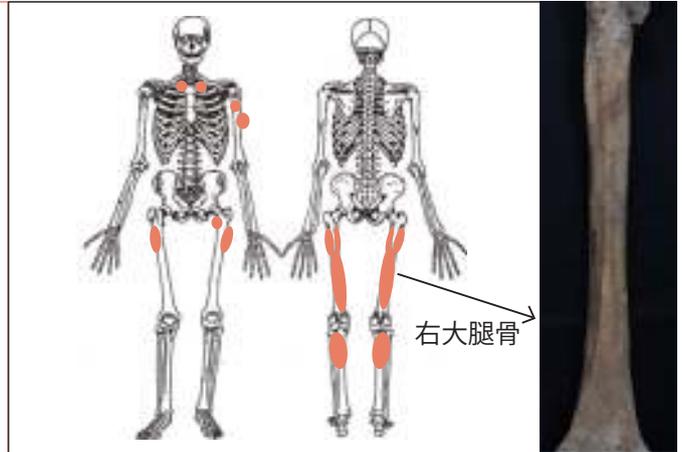
「首飾りの古墳人」の頭蓋骨と全身骨格▶



■ きんこつかく筋骨格ストレスマーカーからわかること

甲を着た古墳人は、大腿骨や左上腕の筋附着部分の発達が特徴的で、馬に乗ることや弓を弾くような動作が多く、左利きの可能性があることがわかりました。首飾りの古墳人も筋附着部分の発達がみられることから、農作業などの労働をしていた可能性があります。

「甲を着た古墳人」の筋附着部の発達▶



■ よみがえった古墳人

右の写真は、県立歴史博物館の「よみがえれ!古墳人プロジェクト」で、甲を着た古墳人と首飾りの古墳人の頭骨をもとに復顔したものです。渡来系の顔立ちと関東から東北古墳人に多い顔立ちの違いがよくわかります。

復顔された古墳人▶



甲を着た古墳人



首飾りの古墳人

(群馬県立歴史博物館 提供)